



頭の良い人はいる。高い教養や豊かな創造力の持主もいる。しかし、高羽さんのように、そのすべてを合わせ持った人は、めったにいないものではない。この人を仕事の伴侶に得たばかりは、はかりしれぬ果報者だった。ぼくが彼を独占していなければ、彼はもっともつと優れた仕事を残したかもしれない。高潔、という、今は死語になりつつある言葉にふさわしい生涯を生きた人だった。あらゆる意味で、一流の人だった。

一九九五年十一月三十日

男はつらいよ 寅次郎紅の花の撮影現場にて

山田洋次

◆高羽哲夫年譜 — TETSUO TAKAHA Biographical sketch

- 1926年(大正15年) 河沼郡茂川村(現・湯川村)生まれ
- 1945年(昭和20年) 福島県立会津中学校卒業(現・会津高等学校)
- 1948年(昭和23年) 現・国立大学法人山形大学工学部卒業後松竹大船撮影所撮影部に入社
- 1964年(昭和39年) 山田洋次監督の映画『馬鹿まるだし』で撮影監督としてデビュー
- 1991年(平成3年) 『息子』で日本映画技術賞、毎日映画コンクール撮影賞、日本映画アカデミー優秀賞受賞
- 1992年(平成4年) 紫綬褒章受賞
- 1993年(平成5年) 『学校』で日本映画技術賞、日本映画アカデミー優秀賞受賞
- 1995年(平成7年) 10月31日逝去、勲四等旭日小授賞受賞
- 1996年(平成8年) エランドール・毎日映画コンクール・日本映画アカデミー協会会長各特別賞受賞

当湯川村出身の故高羽哲夫氏は、撮影監督として山田洋次監督とコンビを組み『男はつらいよ』シリーズをはじめ数々の作品で日本映画界に大きな業績を残されました。ふるさとの先輩、高羽氏をより多くの皆様に知っていただき、映画づくりにかけた思いが伝わればとの趣旨のもと、ご遺族から寄贈いただきました品々を展示公開させていただきますことになり記念館を開設いたしました。



佐野文夫作「蝶」FRP

地域活性化施設
「湯川たから館」
湯川村の農産物を使った加工品を作る施設に、湯川村名誉村民の彫刻家佐野文夫さんの作品、『男はつらいよ』シリーズの撮影監督高羽哲夫さんの遺品、村内で出土した土器などの文化財を展示しています。まさに湯川村の「たから」が展示してあります。



Issue

発行 | 湯川村教育委員会

〒969-3544 福島県河沼郡湯川村大字清水田字長瀬17番地
TEL0241-27-2250 FAX0241-27-8765

Museum

地域活性化施設 | 湯川たから館

〒969-3556 福島県河沼郡湯川村大字勝常字堂後830番地
TEL0241-27-8484 FAX0241-27-3992(湯川村商工会)

Memorial

高羽記念館 | 末廣酒造(株)嘉永蔵内

〒965-0861 福島県会津若松市日新町12-38
TEL0242-27-0002 FAX0242-27-0003

撮影監督

高羽哲夫 遺品集

山田洋次監督と共に歩んだ映画人生



TETSUO TAKAHA
Articles left by the departed collection





高羽氏使用の映画脚本(130冊)

撮影監督デビュー作品『馬鹿まらだし』はじめ『男はつらいよ』シリーズ48作など展示。脚本にはご本人直筆の書入れがあり、ここからも映画にかけた情熱が伝わってきます。



各種受賞された賞状盾、副賞(32点)

1992年、1994年日本アカデミー賞撮影賞をはじめ数々の受賞された賞状などを展示。撮影技術の高さがここからも見えます。



映画パンフレット(51点)

映画公開時のパンフレットは当時を思い出させます。

※『男はつらいよ』シリーズのポスター(湯川村所有)の展示もいたします。



大入袋、JSCバッチ他

なかなかお目にかかれない大入袋や実際に使用していたバッチ、名刺、会員証など展示。



撮影アルバム(45冊)

作品毎にまとめてある映画撮影時のスナップ写真のアルバムです。映画では見られないシーンを見ることが出来ます。



書籍(213点)

なかでも「映画技術」はNO.1からNO.160まで揃っています。常に研究されていた姿が偲べれます。



高羽氏使用の衣類、小物他

愛用の皮製靴や帽子、カメラ、映写機、ジャンパー等展示。大事な台本を入れた規子夫人手作りの台本かばんも展示。

